

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、足踏み状態にある。
先行きについては、慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲43.5と、前期比で6.4ポイント減少し、2期連続で悪化した。業種別では、製造業、非製造業ともに2期連続で悪化した。先行きについては、「悪い方向に向かう」が前回調査から増加した。
- 売上げD I・資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は3期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げD I・採算D Iは当期D Iより改善し、資金繰りD Iは当期D Iより悪化する見通しである。
また、設備投資実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成31年1～3月期、「当期」：平成31年4月～令和元年6月期、「来期(先行き)」：令和元年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲43.5となり、2期連続で悪化した。前期比で6.4ポイント減少し、前年同期比で13.2ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲45.2)、非製造業(▲42.1)ともに2期連続で悪化した。

〈景況感D Iの推移〉

	当期 (H31.4-R1.6)	前期 (H31.1-3)	前年同期 (H30.4-6)
全体	▲43.5	▲37.1	▲30.3
製造業	▲45.2	▲34.7	▲25.5
非製造業	▲42.1	▲39.0	▲34.1

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は6.6%（前回調査(H31.1-3月)比▲2.3ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は34.7%（前回調査比+8.5ポイント）だった。

先行きD Iは▲28.2（前回調査比▲10.8ポイント）と、2期ぶりに悪化した。

〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R1.7-9)
全体	6.6%	34.7%	▲28.2
製造業	6.8%	34.6%	▲27.8
非製造業	6.4%	34.9%	▲28.4

2 売上げについて

売上げD Iは▲26.1（前期比+2.1）となり、2期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (H31.4-R1.6)	前 期 (H31.1-3)	前年同期 (H30.4-6)	来期見通し (R1.7-9)
全 体	▲26.1	▲28.2	▲16.3	▲22.1
製 造 業	▲28.0	▲31.2	▲10.5	▲22.5
非製造業	▲24.6	▲25.9	▲20.8	▲21.7

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲19.3（前期比+1.3）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (H31.4-R1.6)	前 期 (H31.1-3)	前年同期 (H30.4-6)	来期見通し (R1.7-9)
全 体	▲19.3	▲20.6	▲13.8	▲20.4
製 造 業	▲20.7	▲21.5	▲11.5	▲21.9
非製造業	▲18.1	▲19.9	▲15.7	▲19.3

4 採算について

採算D Iは▲29.3（前期比+0.4）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は2期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (H31.4-R1.6)	前 期 (H31.1-3)	前年同期 (H30.4-6)	来期見通し (R1.7-9)
全 体	▲29.3	▲29.8	▲21.9	▲26.2
製 造 業	▲29.2	▲30.6	▲17.1	▲27.0
非製造業	▲29.5	▲29.1	▲25.7	▲25.6

5 設備投資について

実施率は21.7%となり、3期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに増加し、非製造業は横ばいだった。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (H31.4-R1.6)	前 期 (H31.1-3)	前年同期 (H30.4-6)	来期見通し (R1.7-9)
全 体	21.7%	21.4%	21.1%	19.0%
製 造 業	25.7%	24.9%	25.9%	24.8%
非製造業	18.6%	18.6%	17.3%	14.5%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・中国市場の停滞により受注が減少傾向である。
- （電気機械器具）・米中貿易摩擦の影響で受注が減少している。
- （金属製品）・米中貿易摩擦により受注が減少、業界内の競争が激しくなっている。
- （食料品）・全体的な消費量も変化がなく、業界全体の景況感は普通である。
- （銑鉄铸件）・米中貿易摩擦の関係で悪化している。
- （百貨店）・大型連休により客数は増加したが売上げは増えておらず、景況感はあまり良くない。
- （旅行業）・改元や大型連休により旅行需要は高く、景況感は良好である。
- （建設業）・仕入価格は依然高騰しているが、受注環境は堅調であり景況感は普通である。

【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・売上減少に加え人件費・原材料費が上がっており、採算性は悪化している。
- （輸送用機械器具）・大型連休で工場稼働日数が減ったため5月は売上げが減少した。
- （電気機械器具）・売上減少が収益を圧迫し採算性が悪化した。
- （金属製品）・売上減少ながら受注単価が引き上げられたので採算性はあまり変わらない。
- （プラスチック製品）・価格改善効果により採算性が向上した。
- （食料品）・製品単価が引き上げられたことにより採算性も改善した。
- （スーパー）・水道光熱費の上昇に見合うだけの利益を生み出せていない。

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・中国向けが引き続き良くない。
- （金属製品）・米中貿易摩擦の不透明感が続くことがマイナス材料である。
- （印刷業）・ラグビーワールドカップや消費税関連の受注が動き出している。
- （百貨店）・消費増税前の駆け込み需要はあるが、増税後の反動もありどちらとも言えない。
- （旅行業）・観光需要はまだまだ良い状況が続くとみている。
- （建設業）・受注環境は良好、工事件数は引き続き横ばいで増減は無いとみている。